

平成 26 年度第 5 回 流山市環境基本計画策定部会 議事録

平成 26 年 7 月 14 日 (月) 13 時 30 分開会 18 時 00 分閉会

出席委員：

和田登志子副部会長、新保國弘審議会会長、

秋元五郎委員、中大路早智江委員

事務局（環境政策・放射能対策課）：

染谷課長、片浦係長、遠藤副主査、小山内主事

リジオナル・プランニング・チーム（コンサルタント）1 名（内藤）

【計画案について】

発言者	要旨
事務局	(吉永部会長病欠のため副部会長複部会長に進行を依頼) (計画案の頁ごとに、審議会や市長からの指摘、修正内容を確認していく旨を説明)
事務局	(1、2 頁について説明)
全員	(事務局案に合意)
事務局	(3、4 頁について説明)
委員	自然環境の課題で「TX 沿線を中心に開発が進む」の部分への審議会からの指摘について、開発が進むことを決定事項として書いてしまって問題ないか。
委員	TX 開発は事実で、ここでの大事な言葉と思う。
事務局	その他の地域の開発も考えての指摘ではないか。
副部会長	沿線中心の開発は実際に行われており、地域の具体性を表すため、必要な部分と思う。
全員	(当該部分は現状のままで合意、他部分も事務局修正案に合意)
委員	谷底低地、樹枝状侵食谷、民生家庭・業務部門は言葉が難しい。言い換えはできないか。
委員	専門的ではあるが、正確な言葉として他には換えられない。用語の解説が必要。
事務局	解説のある頁への参照や、新たな注釈等で対応する。
事務局	(5、6 頁及び、各基本目標イラストの配置変更について説明)
全員	(事務局修正案に合意)
事務局	(7、8 頁について説明)
コンサル	補足説明として。②の「本市の風土を継承する歴史的文化財」については、望ましい環境像の議論の中で歴史と風土の重要性が話されたことを意識している。具体的には、社寺林のほかに、野馬土手や古墳などがある。
委員	③で扱うのは、農地と環境にやさしい農業ではないか。
コンサル	③では、土地（農地）と農法について示している。
委員	市長の指摘とも関連すると思うが、庁内調整や市長への再提出のスケジュールはどうなるのか。
事務局	市長・副市長から具体性をという指摘のあった 26 頁については、今週中に調整して再提出できればと考えている。また 24 頁と 22 頁についても検討する。
委員	市長・副市長への再提出の経過は、次回審議会前に、審議会委員全員に伝えていただきたい。
事務局	対応する。
委員	②の市街地は市街化区域で、③は市街化調整区域のことか。「市街地の」と限ってもよいのか。①は市全体が対象で、コリドール、ネットワークを作っていくことが重要である。
コンサル	②の「市街地」は市街化区域に、③の「農地や斜面林」はほぼ市街化調整区域に該当し、行政の所管を意識した区分である。法律上は市街化調整区域では開発を抑制すると定められている。市街化区域では開発が前提なので「市街地の緑の保全・創造」としている。
委員	②の見出しでは「市街地」よりも「まちなか」のほうが、③の見出しの後半は「農地生態

	系)ではなく「環境に配慮した農業」とするのが好ましい。 ③の文面では出だしの「市域の・・・に関して」は不要で、「農地や斜面林の保全と活用、減農薬や減化学肥料等による環境への負荷を低減した農業を推進します。」とされたい。
委員	地産地消も重要である。
事務局	「農地や・・・低減した農業と、地産地消を推進します。」ではどうか。
副部会長	③の見出しは「農地や斜面林の保全・活用と環境に配慮した農業の推進」でよいか。
全員	(合意)
委員	④への指摘にある「要素」という言葉には違和感がある。
委員	水辺の特性も考えて「河川や水路、池、湿地、湧水などの水辺は、」ではどうか。また、④の見出しには、各地で進む取り組みも意識して、水辺の生態系ネットワークの保全・再生ということを反映されたい。時代にあった表現が好ましい。「活用」はどうなのか。
コンサル	水辺に親しむという面もある。
副部会長	「水辺の保全・活用と水辺生態系ネットワークの再生」でよいか。
事務局	戦略では「構築」としているが、どちらがよいか。
全員	(「水辺生態系ネットワークの構築」で合意)
委員	①の説明文1行目では「生息・生育環境」とされたい。
事務局	対応する。
副部会長	指標の書き方について、H17の代わりに「目標値」「実績値」を入れるとわかりやすい。
事務局	以前に目標値がないものも多いが、現計画以降ということでH17から記載している。
副部会長	そうであれば、「目標値」「実績値」の説明は見出しの横に置くのがよい。
事務局	対応する。
委員	グリーンチェーンの認定率など、計算方法の解説が必要。
事務局	巻末資料で対応する。
全員	(まちなか森づくりプロジェクトの修正について、事務局案に合意)
委員	大堀川リバーサイドプロジェクトでは「親水空間を兼ねた防災調節池整備事業」とされたい。
事務局	7頁の②への審議会からの指摘に関してはどうか。形容が多すぎて読みにくいのだと思われる。
副部会長	「自然と一体的に本市の風土を継承する」を除くとすっきりする。
委員	書き出しの「緑の豊かさを・・・形成するとともに」はなくてよい。
委員	歴史的文化財の具体例があるとわかりやすい。「風土を伝承する古墳、野間土手等歴史的文化財を含む自然環境の保全」ではどうか。
全員	(合意)
事務局	(9、10頁について説明)
委員	10頁コラムの最初の段では「太陽光を利用して二酸化炭素を吸収し酸素を排出する(光合成)ことから」とされたい。
事務局	対応する。
全員	(事務局修正案に合意)
事務局	(11、12頁について説明)
委員	12頁「5Rから3R」について。バザーは一般的ではないし、個人同士の交換をここに書くのも違和感があるため、現状でよい。
全員	(合意)
委員	この図は文字が小さく、緑の色が濃いので、読みやすく修正されたい。リターナブル容器はあまり見かけないが、ここに必要なのか。
副部会長	リターナブル容器は必要と思う。
事務局	図は修正する。リターナブル容器を含め、図の文面は現状のままとする。説明の末尾は「取組として位置付けています。」とする。
事務局	(13、14頁について説明)

全員	(事務局修正案に合意)
事務局	(15、16 頁について説明)
委員	方針のところでは、行政から「意識の高揚を」という表現は好ましくない。「意識と行動」で十分である。
副部会長	「意識の高まり」ではどうか。
全員	(合意)
委員	16 頁の下の枠内への指摘については「不要照明」だけでわかると思う。
事務局	「節電やエコドライブなど」ではどうか。
全員	(合意)
事務局	(17、18 頁について説明)
委員	審議会からの指摘は、見開きで左右の高さを揃えるということである。
事務局	対応する。
全員	(事務局修正案に合意)
事務局	(19、20 頁について説明)
委員	審議会の指摘のように、「低炭素都市」と「低炭素社会」の区別は、一般市民にはわからない。また、この図の凡例はかえってわかりにくので不要である。
事務局	図中の「低炭素都市」と説明の「低炭素社会」を統一できないかという議論について、説明では単に「低炭素」「循環型」とすれば解決しないか。 図の凡例は削除する。
全員	(合意)
委員	ここは実行計画が主役なので、図のタイトルでは「3つの実行計画」とされたい。
委員	実行計画の枠を太くして。20 頁の網掛け部分もしっかり見せる。
副部会長	実行計画の枠を色分けし、「基本目標 X の実行計画」と示すとよい。
委員	さらに、基本目標に色は付けないほうがよい。
副部会長	基本目標 1、2、3 は、下段の 4、5 の大きさに揃えるとよい。
全員	(合意)
事務局	(21、22 頁について説明)
委員	22 頁の地図は、凡例も改善されたので、地形区分を使ったものがわかりやすく感じる。
委員	地形区分を使うのがよいと思う。凡例では「坂川」が正しいので修正されたい。地図のタイトルは「生物多様性ながれやま戦略策定時の重点地区(2 地区 8 拠点)」とされたい。
事務局	対応する。
全員	(事務局修正案に合意)
事務局	(23、24 頁について説明)
委員	24 頁の②の文面では、エネルギー消費は削減したという肯定的なことを最初に説明したほうがよい。ひとつの物差しでは判断できないことも伝わったほうがよい。また、その表では、年号を他と揃えて「H」で表記されたい。
事務局	対応する。
全員	(事務局修正案に合意)
事務局	(25、26 頁について説明)
全員	(事務局案に合意)
事務局	(参考資料について説明)
委員	36 頁の年表の下にある地球地図は、丸い地球の絵のほうが実感がある。
委員	2013 年発行のものが最新なので確認されたい。 36 頁の上段の説明文では、常磐自動車道の環境対策やオオタカ調査は市民主導であったことから、「市民の提案により」というような表現が正しい。
事務局	対応する。
全員	(事務局修正案に合意)
事務局	(修正と確認の段取り、審議会開催について説明)

委員	次の審議会では、今日のように全部を説明、議論する時間はない。議事の進め方について検討されたい。
----	---

<審議会の今後の日程>

7月28日（月） 15時～ 委員会室